



あいさつ運動 地域と連携

いじめ防止に取り組む南材木町小 仙台

保護者や地域住民と連携していじめの起きにくい環境づくりに取り組んでいる学校として、仙台市若林区の南材木町小

(児童325人)を紹介いたします。「人との関わりを大切にする子どもたち」という目標を掲げ、あいさつ運動などに力を

入れています。

「おはようございます」です。毎週金曜の朝、計画委員会の5、6年生約10人が校門前に立ち、登校してくる児童にあいさつをします。地域の町内会関係者らも一緒に立ち、あいさつしたり見守りをしたりしています。

いさつ運動をする形で、児童全員が参加しました。縦割り活動が活発で、学年を超えた交流も盛んです。学校が日ごろ、子どもたちへの声掛けをお願いしていることもあり、保護者や住民も毎日の登下校時の見守り、新型コロナウイルス感染予防のための校舎内の消毒といった活動に積極的に協力。

顔の見える関係づくり

学校をより良くする活動に取り組む計画委員会は、本年度の活動として「あいさつプロジェクト」を企画。委員長の荒川知穂さん(12)は「笑顔であ

近くを流れる広瀬川での植栽や餅つき、昔遊びなどを一緒にやる中、互いに顔の見える関係づくりができています。長田博史教頭は「特別なことはしていないが、小さな積み重ねの中で風通しのいい安心できる関係ができており、礼儀正しく穏やかな子が多い。子ども同士のちよっとしたいさかいはあっても、見守る大人が多いこともいじめの抑止につながっている」と語ります。

いさつが返ってくるとうれしい。一日の学校生活を笑顔で始められたら、みんな仲良くできると思う」と言います。

仙台市の「いじめ防止『きずな』キャンペーン」

期間中の昨年11月には、各クラスが持ち回りで校門や昇降口に立ってあ



登校する児童に計画委員会の児童たちが元気にあいさつ

仙台市若林区の南材木町小